

蒲生干潟の地形調査⑳

■ 1つになった潟湖

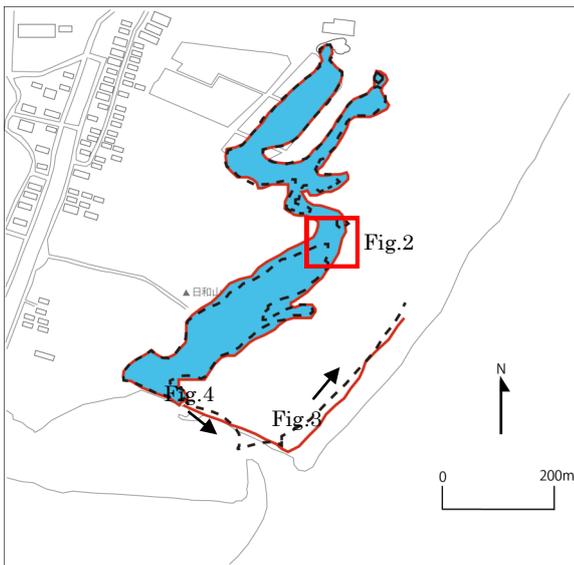


Fig.1 GPSによる簡易測量結果



Fig.2 水深が浅くなった潟湖中央部分



Fig.3 傾斜が緩やかになった海岸線（南側より撮影）



Fig.4 河口のようす（東側より撮影）

調査日 2017年2月8日（水）14：00～15：30 ※満潮時刻12：44（潮位130cm）

Fig.1の赤線で示されたものはGPS簡易測量による2月の汀線、黒線の破線でしめされたものは1月のそれである、また図中の矢印は写真撮影の方向を表している。1月の調査で分断されていた潟湖は、もとおりの一つになっていた。Fig.1中の赤の□で囲まれた部分付近の水位は非常に低く、Fig.2からもわかるように容易に横断できる深さであった。また海岸線(Fig.3)は東側に拡大し、傾斜は緩やかになっており、西風による風紋がくっきりとみられた。導流堤通水部分では3ヶ所とも、川側から潟湖への流水が確認され、導流堤の南側は1月同様に砂州が無い状態のままであった。

河口付近では、右岸側では砂州が縮小していた。特に1月の調査で拡大していた砂州の東側の部分の縮小が顕著であった。左岸側は護岸ブロックの南側の堆積はすっかり無くなり、河口が広がっていた(Fig.4)。

(中田 晋)